



## 梅雨の合間の晴天

校 長 清水 一司

旧暦の6月を「水無月（みなづき）」と呼びます。今の暦では7月～8月に当たりますが、梅雨空が続くこの時季をどうして「水が無い月」と呼ぶのかと疑問に思った方は多いと思います。語源は諸説あるようですが、その一つに「水無月」の「無（な）」は連体助詞の「の」に当たり、「水無月」＝「水の月」であるという説があります。この時季は、田に水を引いたり、梅雨で雨が降り続けることから「水の月」と呼ばれるのでしょう。

さて、本校の6月は嬉しい出来事がたくさんありました。その中から特にお知らせしたい二点を、ご紹介します。

一点目は、本校英語教育（グローバル・スタディ（以下「G・S」））の実践がフジテレビの報道番組で取り上げられたことです。さいたま市立学校のG・Sは、文部科学省が実施した「令和4年度英語教育実施状況調査」において、「中学校3年生で英語検定3級相当の英語レベルに到達した生徒の割合」が86.6%で、平成30年度から4回連続（令和2年度は実施していない）で全国1位となっています。さいたま市立学校の英語教育は、日本一充実していると言っても過言ではないでしょう。この中であって、本校の実践が全国で紹介されたことは大変喜ばしいことです。放送では、授業開始から終了まで全て英語で授業を展開している様子や、ALTと生徒との会話の様子、記者と生徒との英語でのやりとりが紹介され、本校英語教育の水準の高さを日本中に知ってもらうことができました。

二点目は、学校総合体育大会等における本校生徒の活躍が際立っていたことです。学校総合体育大会は全国大会につながる大会であり、運動部員であれば誰もが最大の目標としているものです。この大会には私立中学校やクラブチームからの参加もあり、さいたま市大会を勝ち抜くことさえも難しくなっています。この大会において、本校バレーボール部が優勝、男子ソフトテニス部が団体戦3位の成績を収め、ともに県大会への出場を決めています。また、陸上競技部は男子総合優勝、女子総合準優勝を収め、多くの種目で県大会出場を決めています。柔道部も団体戦、個人戦とも県大会への出場権を手に入れています。さらに、陸上競技部3年生の江連佑真君は、埼玉県中学校通信陸上大会男子100mで全国標準記録を突破し、全国大会への出場を決めています。（6月21日現在）

このように、本校生徒は学力面と体力面のいずれにおいても、全国に誇れる高い能力を発揮しています。

例年どおりであれば、梅雨は7月中旬から下旬まで続きます。毎年のこととわかってはいても、梅雨空が続くと何となく気分が重たくなるものです。そんな中での本校生徒の目覚ましい活躍は、梅雨の合間の晴天のように私の心を清々しくさせてくれます。